

高等専門学校機関別認証評価 自己評価実施要項の改訂要旨について

1. 自己評価実施要項の字句修正

- (1) 「Ⅰ 提出書類」(p3) 及び「Ⅲ 自己評価書「根拠資料編」の作成」(p4) の字句修正
根拠となる資料・データ等に関し、あいまいな表現である「まとめたもの」を削除し、
字句修正するもの。

Ⅰ 提出書類

- ② 自己評価書「根拠資料編」：①に記載する根拠資料等をまとめたもの(一覧表(任意様式)を含む。)

Ⅲ 自己評価書「根拠資料編」の作成

自己評価書「根拠資料編」とは、自己評価書「本文編」の自己点検・評価の項目ごとの、
判断の根拠となる資料・データ等をまとめたものです。

- (2) 観点1-1-①(p18) 及び観点1-2-③(p20) の【分析の手順】の字句修正
自己点検・評価を実施するための方針に規定されるべき内容を明確にするもの。

観点1-1-① 教育活動を中心とした学校の活動の総合的な状況について、学校として定
期的に自己点検・評価を実施するための方針、体制等が整備されていること

【分析の手順】

- (1) 学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針が定められていることを確
認する。

教育プログラムの現状について、定量的及び定性的なデータや情報を定期的かつ
体系的に把握・追跡し、継続的に情報共有を行う作業や自己点検・評価を計画的
に実施していることが想定されます。

実施方針とは、趣旨、自己点検・評価の基準・項目、対象、自己点検・評価に必
要なデータや情報、実施時期、実施方法、評価結果の外部検証等を定めている学
校内の規程が想定されます。

観点1-2-③ 施設・設備、学生支援に関し行う自己点検・評価の方法が定められてい
ること

【分析の手順】

- (1) 基準1-1の方針において、若しくは同方針に基づいて、自己点検・評価の基準・項目
等が設定されていることを確認する。

- ・自己点検・評価の基準・項目、対象、自己点検・評価に必要なデータや情報、実施時
期、実施主体、評価方法等を定めた規程等に基づいて確認する。

(3) 観点2-5-①及び観点2-5-② (p29~30)、観点4-3-② (p41) の【分析の手順】の字句修正

高等専門学校設置基準に基づき、「教育補助者(指導補助者)」を「指導補助者」に改めるもの。上記修正に伴い、目次(p13)も修正。

観点2-5-① 教育活動を展開するために必要な教育支援者や~~教育補助者(指導補助者)~~が配置されていること

【分析の手順】

(3) ~~教育補助者(指導補助者)~~を配置する場合、その定義、業務内容、採用手続等が規定されていることを確認する。

- ・演習、実験、実習又は実技を伴う授業を補助する教員、職員、TA等(指導補助者)について、「~~教育補助者(指導補助者)~~」の定義、業務内容や採用等に係る手続が規程等により定められていることを確認する。

【観点到に係る根拠資料・データ】

- ・【様式2-1】高等専門学校現況表
- ・役割分担が確認できる資料(事務組織規程、事務組織図、技術室規程、職員一覧等)
- ・助手を配置する場合、助手の位置付け・支援内容と人数配置状況が明示されている資料
- ・~~教育補助者(指導補助者)~~の定義、業務内容、採用手続について定めた規程

観点2-5-② 教育活動を展開するために必要な教育支援者や~~教育補助者(指導補助者)~~が担当する業務に応じて、研修等、必要な資質の維持、向上を図る取組が組織的に実施されていること

【分析の手順】

(2) ~~教育補助者(指導補助者)~~を配置する場合、研修、オリエンテーション、指導・助言などで資質の向上を図るための取組が適切に行われていることを確認する。

- ・研修等の取組の方針、内容・方法及び実施状況等を確認する。

観点4-3-② 管理運営体制及び管理運営を円滑に行うための事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組(スタッフ・ディベロップメント*)が組織的に行われていること

教育支援者や~~教育補助者(指導補助者)~~の教育支援活動に係る資質・能力向上に関する取組は、観点2-5-②において確認します。

※目次の修正箇所の明示は省略

- (4) 観点4-1-② (p37~p38) の【分析の手順】及び【観点到に係る根拠資料・データ】の字句修正
 財務状態及び収支状態を確認するにあたって必要な根拠資料・データに修正するもの。

<p>観点4-1-② 教育研究活動に必要な予算が配分され、経費が執行されていること 【分析の手順】 (1) 過去5年間の財務状態が適切な状況となっていることを確認する。 ・財務諸表等により過去5年間の予算・決算の財務状態を確認する。 ・<u>経常損失がある場合は、その理由を確認する。</u> ・<u>特別損失が過大である場合は、その理由を確認する。</u> (2) 過去5年間の収支状況が適切となっていることを確認する。 ・財務諸表等決算報告書により過去5年間の予算・決算の状況を確認する。 ・各項目に関し、30%以上乖離(かいり)している場合は、その理由を確認する。 ・経常損失がある場合は、その理由を確認する。 ・特別損失が過大である場合は、その理由を確認する。 【観点到に係る根拠資料・データ】 ・設置者の貸借対照表等の財務諸表等(過去5年間) ・設置者の損益計算書決算報告書(過去5年間)</p>

2. 自己評価実施要項・別添様式の字句修正

(1) 様式1「自己評価書」

- ・上記1(2)～(4)に対応した修正(観点1-1-①(1)(3)、観点2-5-①(3)、観点2-5-②(2)、観点4-1-②(1)(2))

観点1-1-① 教育活動を中心とした学校の活動の総合的な状況について、学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針、体制等が整備さ	
自己点検・評価結果欄(該当する○欄をチェック◎)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針が定められていること。 ○ 定められている ◎ 定められていない	◇自己点検評価及び評価に関する基本方針(自己点検・評価の基準・項目、担当組織を含む)が明示されている規程等 資料1-1-1-(1)-01_根拠資料1
(3) 施設・設備、学生支援に関し、学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針が定められていること。 ○ 定められている ◎ 定められていない	◇自己点検評価及び評価に関する基本方針(自己点検・評価の基準・項目、担当組織を含む)が明示されている規程等
観点2-5-① 教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者(指導補助者)が配置されていること	
自己点検・評価結果欄(該当する○欄をチェック◎)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(3) 教育補助者(指導補助者)を配置する場合、その定義、業務内容、採用手続等が規定されていること。 ○ 規定されている ○ 規定されていない	◇【様式2-1】高等専門学校現況表 ◇教育補助者(指導補助者)の定義、業務内容、採用手続について定めた規程
観点2-5-② 教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者(指導補助者)が担当する業務に応じて、研修等、必要な資質の維持、向上を	
自己点検・評価結果欄(該当する○欄をチェック◎)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(2) 教育補助者(指導補助者)を配置する場合、研修、オリエンテーション、指導・助言などで資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。 ○ 行われている ◎ 行われていない	◇研修の内容が確認できる資料 ◇実施状況一覧

観点4-1-② 教育研究活動に必要な予算が配分され、経費が執行されていること	
自己点検・評価結果欄(該当する○欄をチェック◎)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 過去5年間の財務状態が適切な状況となっていること。 ○ なっている ◎ なっていない	◇設置者の 貸借対照表等 の財務諸表等(過去5年間)
(2) 過去5年間の収支状況が適切となっていること。 ○ 適切となっている ◎ 適切となっていない	◇設置者の 損益計算書決算報告書 (過去5年間)

・取組の成果を重複して求めている箇所の削除(観点4-2-④(2)、観点5-3-②(1)(2)(3)、観点6-3-②(1)(2)(3))

観点4-2-④ 学校の組織的な取組として行う地域における連携による活動について、その推進に向けた体制の整備や措置が図られているか【より望ましい】	
自己点検・評価結果欄(該当する○欄をチェック◎)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(2) 外部の教育・研究資源が活用されているか。【より望ましい取組として分析】 ○ 活用されている ◎ 活用されていない	◇活用状況が確認できる資料(関係規程、協定一覧、連携事業の実績等) ◆外部資源の活用により、学校としての優れた成果を上げていることを確認する。

観点5-3-② 創造力、実践力等を育む教育方法の工夫が図られているか【より望ましい取組として分析】	
自己点検・評価結果欄(該当する○欄をチェック◎)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 創造力を育む教育方法の工夫が行われているか。【より望ましい取組として分析】 ○ 行われている ◎ 行われていない	◇教育プログラムの一環として行われている、創造力を育む教育方法の具体的な工夫が確認できる資料(PBL型の授業や創造型の演習のシラバス、授業教材、受講者数等) ◆工夫を行った結果、学生が実践力を発揮し、あげた成果や効果があれば具体的に、資料を基に記述する。
(2) 実践力を育む教育方法の工夫が行われているか。【より望ましい取組として分析】 ○ 行われている ◎ 行われていない	◇教育プログラムの一環として行われている、実践力を育む教育方法の具体的な工夫が確認できる資料(シラバス、授業教材、受講者数等) ◆工夫を行った結果、学生が実践力を発揮し、あげた成果や効果があれば具体的に、資料を基に記述する。
(3) その他教育方法の工夫が行われているか。【より望ましい取組として分析】 ○ 行われている ◎ 行われていない	◇教育プログラムの一環として行われている取組で、(1)(2)以外(例:学生の国際性涵養(かんよう)に向けた教育など)で教育方法の工夫を行っているものがあれば内容を示し、具体的な工夫が確認できる資料を提示する。(シラバス、授業教材、受講者数等) ◆工夫を行った結果、学生が実践力を発揮し、あげた成果や効果があれば具体的に、資料を基に記述する。

観点6-3-③ 創造力、実践力等を育む教育方法の工夫が図られているか【より望ましい取組として分析】	
自己点検・評価結果欄(該当する○欄をチェック◎)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 創造力を育む教育方法の工夫が行われているか。【より望ましい取組として分析】 ○ 工夫が行われている ◎ 工夫が行われていない	◇教育プログラムの一環として行われている、創造力を育む教育方法の具体的な工夫が確認できる資料(PBL型の授業や創造型の演習のシラバス、授業教材、受講者数等) ◆工夫を行った結果、学生が実践力を発揮し、あげた成果や効果があれば具体的に、資料を基に記述する。
(2) 実践力を育む教育方法の工夫が行われているか。【より望ましい取組として分析】 ○ 工夫が行われている ◎ 工夫が行われていない	◇教育プログラムの一環として行われている、実践力を育む教育方法の具体的な工夫が確認できる資料(シラバス、授業教材、受講者数等) ◆工夫を行った結果、学生が実践力を発揮し、あげた成果や効果があれば具体的に、資料を基に記述する。
(3) その他教育方法の工夫が行われているか。【より望ましい取組として分析】 ○ 工夫が行われている ◎ 工夫が行われていない	◇教育プログラムの一環として行われている取組で、(1)(2)以外(例:学生の国際性涵養(かんよう)に向けた教育など)で教育方法の工夫を行っているものがあれば内容を示し、具体的な工夫が確認できる資料を提示する。(シラバス、授業教材、受講者数等) ◆工夫を行った結果、学生が実践力を発揮し、あげた成果や効果があれば具体的に、資料を基に記述する。

- ・ 1 単位時間を50分以外で運用している場合の記述の削除（観点5－4－③（6））

観点5－4－③ 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること	
直近の認証評価において本観点に係る「改善を要する点」の指摘がなく、各項目の内容に大きな変更がない場合は、本観点の分析は不要。その場合、下記「直近の認証評価」における指摘等なし <input type="checkbox"/> 直近の認証評価における指摘等なし	
自己点検・評価結果欄(該当する○欄をチェック◎)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(6) (5)の30単位時間授業では、1単位時間を標準50分としていること。 ○している ◎していない	◇状況が確認できる資料(学則、時間割等) ◆1単位時間を50分以外で運用している場合は、標準50分に相当する教育内容を確保していることについて、学校の現状を踏まえ、資料を基に記述する。

- ・ 誤字・脱字の修正（観点1－2－④（2）、観点6－4－②（3）等）

※本事項の修正箇所の明示は省略

(2) 様式2－3「担当教員一覧表」〔改正後基準〕

基幹教員の種類b（一般科目担当基幹教員のうち、年間8単位以上の授業科目を担当する者（aに該当する者を除く。））に対して、担当授業科目の単位数の記載を求めらるもの。

1. 一般科目担当教員の専門分野と担当授業科目

〇〇年5月

基幹教員の種類	氏名	職名	学位	校務分担	専門分野	担当授業科目（準学士課程）	担当授業科目（専攻科課程）	実務経験	技術資格
基幹教員	a								
	b								
基幹教員以外 の教員 (助手除く)									

* 「基幹教員の種類」は、リスト(a, b)から選択してください。

- a: 一般科目担当基幹教員のうち、専ら当該高等専門学校の教育に従事する者
- b: 一般科目担当基幹教員のうち、年間8単位以上の授業科目を担当する者(aに該当する者を除く。)

* 専攻科の科目を担当する教員は備考欄に「専攻科担当」と記入してください。

ただし、特例適用認定における「学修総まとめ科目」担当教員としての適格性審査において「適格」と判定された教員については、備考欄に「専攻科担当(適格)」と記載してください。

* 基幹教員の種類bに該当する教員の担当授業科目には、カッコ書きで単位数を記載してください。例：電気回路I(2単位)

(3) 様式2-4「ウェブサイト掲載項目チェック表」

「④入学者の選抜に関する情報」に文部科学省通知に従い文言を追加し、「⑥教育課程に関する情報」の余分な斜線を削除するもの。

ウェブサイト掲載項目チェック表【〇〇高等専門学校】

チェック項目	該当URL	備考
④ 入学者の選抜に関する情報		
○ 学力検査等の内容並びに試験問題、解答又は解答例及び出題意図	準： 専：	
○ 合否判定の方法及び基準	準： 専：	注1
○ 合理的配慮の提供に関する対応方法	準： 専：	注1
○ 上記以外の入学者選抜に関する情報	準： 専：	注1
⑥ 教育課程に関する情報		
○ 授業科目の名称（学則の別表、授業科目一覧等）	準： 専：	
○ 授業の方法及び内容並びに1年間の授業計画の概要（学期ごとのシラバス）	準： 専：	

斜線削除

以上